
月夜に閃く二振りの野太刀

刀馬鹿

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

月夜に閃く二振りの野太刀

【Nコード】

N6707Y

【作者名】

刀馬鹿

【あらすじ】

モンスターハンターの世界から、自分の世界に帰る途中謎の声（？）に「修行不足」と言われた結果、型月の世界に迷い込んだ人間……鉄刃夜。己の世界に帰ることの出来なかった刃夜は、悲観しながらも、その世界で帰る方法を探す。しかし現実には容赦なく彼を人生の荒波へと引き連れていき……そして後の人生において最強の侍と出会う。この世界において刃夜と侍は……何をするといいのか……？

「リアル？モンスターハンター 異世界に飛んだ男の帰宅物語？」
の続編。結構なネタを前作から持ってきます。出来れば前作をお読
みになってから読んだ方が物語を深く理解できると思います。

???

「いたいた、じいさん」

「ん？ どうした？」

日が高く登っている。

気温は暖かく、そんな晴れやかな午後の風景。

縁側に腰を掛けていている老人に話しかける男がいた。

「刃夜知りませんか？ 最近あいつを見かけないですが？」

「ああ、あいつなら今行ってる」

問いかけに答えたその言葉はあまりにも少なかった。

だがその単語だけで男は理解したのか、納得したように頷いていた。

「ああ……もうそんな時期でしたが……。隣座っても？」

「ああ」

老人の許可を貰い、男は老人の隣に腰掛ける。

腰掛けてから、老人は隣にあった急須から湯飲みへとお茶を注いで男に渡す。

それに礼を受け取って男は茶をすすった。

「いやあ〜。時間が経つのは早いですね〜。まさかあいつもそんな時期とは」

「お前の時は何処へ行ったんだったか？」

「いやあ〜自分の時はひどかったですよ〜。何せ行った世界で魔王が復活したとかで大慌てで対策してたら、突然地下……下？ から大魔王とか言うのが出てきましてね……。それがもう、めっぼう強

くて……。あの時少年達と一緒にじゃなかったら俺はきっと今ここに
いなかったでしょうね」

笑いながら話す男。

だがその笑みには深い感情が刻まれていた……。

【友よ……】

そこで、二人に掛けられる言葉……。

だがその言葉は耳に聞こえるものではない。

しかし二人は明敏にそれを感じ取っていた……。

【感謝する……。お主のおかげで我の世界はとりあえず難を逃れた】

「何の何の。こちらこそ感謝する。修行の場を与えてもらって……」

それと会話をする老人。

親しげに会話をするその姿は、間違いなく友人との会話だった。

【今そちらに送っているところだ。重々礼を……】

「待て」

言葉を遮る老人。

その反応に訝しむ見えない相手と隣の男。

それを気づきながらも、老人は何か考え事をする仕草をして……顔を上げた。

「済まないが足跡を送ってもらってもいいか？」

【……わかった】

老人のその言葉に素直に頷く相手。

そして少しの間顔をうつむけて目を閉じる。
深く瞑想しているその姿は……どこか浮世離れたものを見ている
感じだった……。

「……だめだな」

しばらく……といっても十数秒にも満たないであろう時間目を閉じていた老人が突然そう言いながら顔を上げた。
その言葉に、男が反応した。

「そんなにですか？」

「見るか？」

「見ます」

当たり前のように、意味のわからない会話を繰り返す二人。
先ほどの老人と同じように、男が目を閉じる。
そしてしばらく経って目を開けて一言……。

「これは確かに……」

「友よ」

【何だ？】

「済まないがこちらにコントロールを回してくれないか？」

【あ、ああ……】

戸惑いながらも、見えない何かは老人の言葉に反応する。
そして老人と男は言った……。

「修行が足りん」

「同感だ。もう一件行ってこい」

と、それだけを言って、二人は再び茶をすすった。

【……いいのか？】

「構わぬ。修行不足だ」

【……そ、そうか】

「ではな友よ。また今度会おう」

【ああ。またな】

そうして消える見えない存在。
それを確認し、二人は再び茶をすすった。

「どこに行かせたんですか？」

「適当だよ」

「おじいちゃん！ お父さん！」

「ん？」

その二人に話しかけてくる一人の女の子がいた。
女の子の方へと、顔を向ける二人。

「お兄ちゃんって、そろそろ帰ってくるはずだよな？ まだ帰って
きてない？」

「帰ってきてないぞ？」

「え〜。まだ帰ってこないの？ 勉強教えてもらおうと思ったのに
」

そう言いながらぶつぶつと二人に挨拶をして、少女は去っていった。
……。
その少女の背を、父と呼ばれた男が心配そうに見つめていた。

「あの子もそろそろ兄離れしてもいいと思うのですが……」

「いいんじゃないか？ あいつら、親兄弟で結婚するのは普通だよ
？」

老人のそのあまりにもすごい言葉に、男は深い溜息を吐いていた……。

「あのねえ……人間は近親相姦はしちゃいけないんですよ？」

「しかしだな。それはあくまでも法律が駄目と言っているだけだろう？　しかし人の愛の形は千差万別であってだな……」

「あのね！　あなたの感覚ではそれでもいいかもしれないけど、私たちは人間なんですよ？　別にあなたの考えは否定しませんけど……呷るのだけはやめてください！」

ぎゃーぎゃーと、騒ぎながら、二人は縁側でくだらない話を繰り広げていく。

そんなとある家の……昼下がりの午後……。

出会い

「はあ~~~~~疲れたわ」

私は、仕事帰りに、弟分の家に原付を走らせながら、そう一人ではやいた。

新学期が始まったばかりでまだ授業が始まっていないので、ある意味では楽だけど、その分クラス替えなどの書類仕事をこなさなければいけないので、結局いつもよりも忙しい。

「これはもう今日士郎にマッサージさせるしかないなあ」

士郎のマッサージは実に心地がいい。

ご飯を食べた後のマッサージとなればまた格別だった。

そう言えば今日のご飯なんだろうな？

士郎と桜ちゃんの料理に思いを馳せながら、私はさらに住宅街を走っていた。

その時……

パッ

と突然前方に人が現れた。

「え？」

と行った瞬間には遅かった。
そこそこの速度で走っていた私の原付はその人と激突し……私は宙を舞った。

「ノオオオオオオオ!?」

バキツ……グシャ ドサ

盛大に吹き飛んで、私は運良く植木の分部に突っ込んだ。
そして直ぐに起き上がる。

「やばい! 人引いちゃった!?!」

突然の出来事ながらも、私は盛大に折れてしまった植木の木の幹を踏みつけながら先ほど音場所へと戻る。

ちなみに普通の人間なら死ぬような勢いで吹っ飛んでいた……

ちなみに私は決してよそ見運転をしていなかった。

だけどそれはいいわけにならないので私はその人へと駆け寄った。

「だ……」

「あいてて。ったくなんなんだ? 今の声は」

アレ？ 無傷？

先ほど私が引いた事故現場へと戻ると……びっくりなことにその人は引かれたはずなのに……というか私の原付がまっふたつ！？ だといふのにその人は……。

全く何も感じていなかった。

……この辺では見かけない人ね？

典型的な日本人的な身長と体型。

だけどその服の下には相当に鍛え込まれた体をしているのが何となく感じられた。

今も地面にあぐらで座っているというのに、この人に斬りかけられる光景を浮かべることすら出来なかった。

所持品も普通だったけど……一つだけ普通じゃない物を手にしていた。

長く、長く……それこそ本人よりも遙かに長い湾曲した木の棒を……

つて！ 観察してる場合じゃねえー！

「あの、だいじょ……」

「おお！？」

私の問いかけに気づかず、その人は勢いよく立ち上がると、辺りを見渡し始めた。

キョロキョロと忙しく……。

そして懐かしい物を見るような目で……。

「電灯だと!?!」

……なんか変な単語を口にした。

特に何の変哲もない。電柱の中間当たりにある電灯を目にして驚愕していた。

また近くの家の塀や屋根を見て一喜一憂したり、新都の方の夜景を見て感涙に噎びいていた。

……頭うつちゃった?

見かけは今時の若者だつて言うのに……。

私はおそろおそると、その人に声を掛ける。

「あの……。もしもし?」

「? はい?」

「……大丈夫ですか?」

なんか余り大丈夫そうじゃない気がしたけど……。でも見た感じ本当に怪我をしている様子は見られなかった。

「え? 何がですか?」

「いやその……私のバイクでひいた」

「バイクだと!?!」

私のその言葉に、男の人は先ほど引かれた場所付近に、真っ二つになっっている私のバイクへと近寄った。そしてそれにも感動していた……。

「おお、文明の利器だ……。ってちょっと待て？ 今の日本語？」
「え？ ええ。日本ですから」
「日本だと!？」

なんかいろいろと当たり前の事に驚きすぎな気がするんだけど……。

本当に危ないところをつつちゃったのかしら？

「つかぬ事をお聞きしますが、ここはどこですか？」

「？ えっと冬木市ですけど？」

「……冬木市？」

冬木市に何か引っかけかりを覚えたのか、男の人はなんか考える素振りを見せるけれど、すぐに考えるのをやめた。

「まあいい。何とかしよう。色々と教えて下さってありがとござい
いました」

そう言っつてそのまま、立ち去ろうとしてしまった。

「ちょ!?!? ちょっとちょっと!?!?」

その人の袖を、私は大急ぎで掴んだ。

「何か？」

「何かつて……その……私引いちゃったんですよ？ どこか怪我と
かないんですか!?!?」

「え？ 引かれてたんですか俺？」

気づいてなかった!?

その事実の本格的に危ないと思えてしまう私だけ……でも見た目危なそうに見えないし、何よりどこにも異常は見られなかった。だけど引いてしまったのは事実な訳で……。

「と、とりあえずここだと埒が明かないので私の家にきて下さい!

治療します!」

「え、しかし……」

「いゝから! 男の子が遠慮なんてしないで!」

そう言つて半ば強引に連れて行く。

それに観念したのか、男の人が私に自己紹介をしてくれた。

「ご親切にありがとうございます。俺の名前は鉄刃夜です。あなたは?」

お。最近の若者にしては礼儀を知ってる

先に自分の名前を告げてきたこの人に好感を持つ。実際最近の学生はひどい子が多い。

けどこの人には何か、礼節というか礼儀があった。それに嬉しくなった私は元気よくこうしゃべった。

「私の名前は藤村大河。この近くで先生やっています」

出会い(後書き)

口調がおかしい気がするが……気にするな……!!

作者からのお知らせ

どうもです。

刀馬鹿であります。

リアル？モンスターハンターの続編である

月夜に閃く二振りの野太刀

既に何人もの方々がお気に入り登録をしてくださったり、評価をしてくださったり、感想を送ってくれたり、作者として非常にありがたい状況となっております。

去年の12月辺りに今作、月夜にを友人と話し合って作品を練ってきました。元の話があるだけモンスターハンターよりは書きやすいかも知れません。新キャラも考えなくていいわけで（笑）
モンスターハンターはステイナイトを書きたいという作者のわがままと願いもあり、頑張って書き上げました。

さて長々と書きましたが、本題に入りまして、大変申し訳ないのですが……

月夜に閃く二振りの野太刀

の執筆を停止させていただきます！

書きたいがために頑張ってリアル？を書き上げたのですが、ちょ

つと状況がここ数日で変わってしまいました……ちょっと久しぶりに真面目に勉強しようかと思っております。

そのため、わがままで申し訳ないのですが2月辺りまで執筆しません！

それに伴い、感想などのお返事が遅れるかもしれませんが、お許しください。

え？

なら何で新作上げたのかった？

言い訳ですが、まず状況が急変したことが一つ。

ステイナイトを書きたかったことが一つ。

次に大急ぎで書き上げたリアル？を投げ出したわけではないことを知ってほしかったからです。

去年より、飲み会などの席で編集者HM氏やアイデア提供者TT氏と、土曜20時位から飲み始めて翌日日曜朝の5時まで語らってネタを練り上げてきたのです！

(昨日つい19の土曜もやってみましたw)

その飲み会の席ではリアル？に月夜とともにみんなで話し合ってきたので妥協はしません！

(まあ作者の力不足でリアル？の作品はダメ出しされましたが)

特にリアル？モンスターハンターは私にとっては初めて衆目に晒した作品です。刃夜は私にとってかなり大事な息子になりました。

だから投げ出した訳では絶対にはないです！

とりあえずそんなわけで今回知ってほしいことは

状況急変による執筆の停止

二
ステイナイト編をかきたかった

三
リアル？モンスターハンターは決して投げ出したわけじゃない

そして最後……

四

必ず2月以降に作品を再び執筆をすることをお約束させていただき
ます！

というわけでしばらく

「刀馬鹿」

はしばらく活動を停止させていただきます。
申し訳ありませんがご理解、ご協力、そしてご了承のほどをよろし
くお願いいたします

刀馬鹿でした

リアル？モンスターハンターを読む気がない人のためのダイジェスト

(現実逃

リアル？モンスターハンター 異世界に飛んだ男の帰宅物語

を読むのが面倒な人のためのドウウウウアアアアイイイイジエエ

エエエスツウウウトオオオオオ!

読んだ人は飛ばしてもおkよ!

ちなみに現実逃避という名の息抜きですwww

所要時間十分の作品www

ごめん言いすぎた……三十分位だったわw

リアル？モンスターハンターを読む気がない人のためのダイジェスト

（現実派

現実世界にて刀鍛冶士と悪人殺しの家業を営む家の息子、くろがねじんや鉄刃夜1
8歳。

海外にて刀を鍛造してタンカーに揺られて帰国していると、何故か起きたらそこは森の中。

戸惑いつつも辺りを散策していると未知の生物の恐竜モドキ（ランポス）に襲われている少女を発見。

ランポスを討伐して女の子を救うも、言葉が全く通じなかった。

それに悲観視ながらも女の子の村に案内されて、紆余曲折（戦闘とか）あつて村に住む許可をもらった。

ちなみに女の子の名前はレーファである。

黒板なんかで意思疎通を行い、言語を少しずつ覚え、ランポスを百頭素手で狩ったりして暮らしていると、鳥竜種の怪鳥イャンクックを討伐してくれと頼まれた。

その時後に弟子の一人になるリーメという子犬のような男の子と一緒に怪鳥討伐へ。

普通ならばモンスターの首なんて一刀で切断できないのにそれをして驚かれる刃夜。

そうして二人でほのぼのしてたらリオレウス襲来。

油断してたら刀を一本折られた。

だがその刀はまだ死んでいなかった！

その刀を全て拾い集め、レーファの父親が営んでいる鍛冶屋で、親父さんに頼み込んで武器を鍛造した。

対飛竜用の野太刀、「狩竜」を……。

そしてリーメと一緒にドンドルマに赴いてハンターとなった。

それから直ぐに刀を折ったにつくきリオレウスを、後に弟子二号になるギルドナイトで姉御肌なフィーア、そしてリーメとともに討伐。そして討伐すると、尻尾から紅玉を入手。

それがしきりに巢を気にするから言ってみたら卵が合った。
壊すには忍びないので持ち帰ると卵が孵化してリオレウスが……。
それが原因で村の外に追い出された刃夜は、日本家屋を作り上げて
そこで生活をする。
家畜用餌として扱われていた米を正しく調理し、さらには大豆をし
ようして米味噌醤油という日本人には欠かせない物（作者の持論）
を農作する。
それを元手に村に和食屋を開いた。

第一部終了

料理人としてハンターとして生活してたらまた村長に依頼を受ける。
今度は村の近辺の溪流調査。
そこで雷狼と戦って碧玉ゲット！
のちにこれを使って打刀を制作する。
そうしていたらギルドナイトの隊長が来てギルドナイトに入隊して
くれと言われる。
卵から孵ったリオレウス（名前をムーナ）の身の安全を暗に脅され
て仕方なく加入。
それからモンスター討伐にいそしんでいるとなんと魔力^{マナ}を扱える飛
竜、蒼リオレウスが登場。
魔力^{マナ}を扱えるその強さは格別だったが、何とか倒した刃夜。
だがその時、魔力^{マナ}の塊で造られた蒼リオレウスの紅玉をもらった：
…と同時に呪いを掛けられた。
そんな時貴族が、人になつく竜と言うことでムーナを狙ってきたが
貴族をたたきつぶしてやったwww

第二部終了

貴族をぶつとばした罰としてドンドルマで1ヶ月間の謹慎生活。
日々モンスターを討伐していると、太古の生物、老山龍ラオシャン
ロンが登場。

魔力の塊そのもののその巨体に、他の大勢のハンターと協力して何とか撃退。

そのラオシャンロンより、魔をもって魔を切り裂く、「神器」をもらう。

そして村で世話になっていたレーファの父親が、刃夜に助力を請うて、二人で日本刀を元にモンスターハンターの世界に適した形の新たな武器を作り上げた。

名を太刀。

ゲームに出てくるあの太刀である（現実世界の太刀とは色々違う設定）。

そんな生活してたら古龍種霞龍オオナズチが襲来。

神器を奪いに来たというそれは姿が全く見えなくて死ぬ一歩手前まで追い詰められるが、その時桜火竜が刃夜を救う。

オオナズチを討伐して「霞皮の護り」入手。

オオナズチに人質に取られていたレーファも無事に村へと帰還した。その夜告白された刃夜！

ちなみに相手のレーファは14歳だ！

受けたら犯罪だった刃夜君！！！！wwww

結局人殺しの罪があるということと、己の世界に帰りたいがために断るが、レーファが刃夜が逃げていることを諭した。

その事に衝撃を受けるが、そのおかげで罪の意識が軽くなり、一歩踏み出せた刃夜。

そして番外篇を挟んで終了

第三部終了

ここから先は普通の人間ではついてこれないぜ！

幻獣キリンと雪山でバトル！ 勝負にはなんとか勝ったが、鋼龍クシャルダオラが襲来。

キリンの力を借りるもぼろ負けして死にかけたら、神器の力が都合良く目覚めて龍刀【朧火】が顕現。

狩竜に顕現したその力にて鋼龍を討伐して「鋼殻の護り」を手に入れる。

それによって火山に生身でいけるようになった刃夜（クーラドリクク？ 何それおいしいの？ まずいの？）は火山調査中にテオテスカトルとナナテスカトリに襲撃される。

またまた絶体絶命のピンチに陥ったとき刃夜を救ったのは、刃夜を乗せて飛べるまでに成長していたリオレウスのムーナだった。

ムーナのおかげで辛くもナナテスカトリを討伐する。

後にドンドルマの広間にて生き残ったテオテスカトルと激闘を繰り広げて勝利。

このとき炎を操る力の「炎妃の護り」、炎を力に変える「炎王の護り」を手。

この力のおかげでマグマにも入れるようになった。

そして登場、神竜破壊神アカムトルム。

全く攻撃が通じなくて呆然としているとムーナが特攻。

そして撃ち落とされて瀕死になった。

見捨てるつもりはさらさら無いので何とか敵の攻撃をしのいでいたが限界が来て今度こそ死にかけたその時、一番の愛刀である夜月が光った！

敵の空間破砕砲ソニックブラストを霧散させた。

そしてそれに呆気にとられていたらムーナが銀リオレウスに進化した！

魔力で覆われたその姿は銀の太陽であり、神竜だった。

そしてムーナのおかげでアカムトルム討伐。

その時、破の力「力の爪」を手。

四部終わり

そしてその後ウカムルバスに腕試しをされて崩の守「守りの爪」を手。

そして武器を造っていたら文字通り、龍の神様降臨。

アマツマガツチとやらに挑むも、体が軽い刃夜は敵が起こした嵐に吹き飛ばされて1回戦敗北。

それを回避するため、アカムトルムとウカムルバスの素材で造った日本風の鎧を制作、装備！

普通の人間では色んな意味で着用できないその鎧は、鎧単体で切れ味が白ゲージというあり得ない防具であり、それを纏って再討伐。

このとき村人と協力し、何とか荒天神龍を撃退したが……
ついにラスボス登場！

煌黒邪神アルバトリオン（通称、ス・ネ・ｗｗｗ）

世界が暗雲と嵐に包まれてしまった中、自分を好いてくれていたフイーアが刃夜に告白するも、それを振って、刃夜は煌黒邪神討伐へと向かった。

そして神域にて死闘を繰り広げる！

が、結局殺されかけた。

命のともしびが尽きようとしたその時……この世界で自分を支えてくれた人間の声が聞こえた……。

その声を力にして立ち上がる。

そして魔力が力を貸してくれたことで、龍刀【臙火】が龍刀【却火】に進化し、さらに媒介物なしで顕現が可能だった。

そのため、狩竜と龍刀【却火】二振りの、野太刀二刀流というあり得ない戦闘方法で煌黒邪神を討伐した。

こうして刃夜は世界を救ったのだ……

がそんな生物が人間であると思えず、また英雄と言うよりも恐怖を感じてしまうのが人間という物。

露骨な迫害はされないものの化け物扱いをされているような雰囲気になってしまう。

そんなことは屁とも思っていなかった刃夜ｗｗｗ

そして時は満ちた！！！！

モンスターハンターの世界の絶対神、祖龍、紅龍、黒龍に呼ばれて古塔へとムーナで向かう。

その時レーファ、リーメ、フィアも一緒だった。

全員が帰って欲しくないと思いつつも、止まると思っていなかった。それでリーメとフィアは何とか別れを言えた。

だがレーファは違った。

本気で好いていた男がいなくなってしまうことに耐えきれずに涙を流してしまう。

「刃夜が己の世界に戻る方法を見つける前に、帰りたくなくなるよ。うな女になる。その時は……」

そう言う約束があったから割り切れなかった。

だがそんな少女の思いに後ろ髪を引かれつつも、刃夜は己の世界へと帰還した。

(編集者のHM氏に外道といわれてしまったwwwwww)

それから何十年の時が流れた……

刃夜という存在が伝説となり、刃夜と縁の深かった人間も伝説となっていた。

ユクモ村は刃夜のおかげで栄えた。

その村長を務めていた老婆は刃夜と直に接触したことがある最後の人間だった(竜人族)。

その人は残りの生涯を、村の英雄の語り部として過ごしたという……

…。

そして帰っている最中に、どこかから声が聞こえて刃夜はステイナイトの世界へと迷い込んだのだった!!!!!!

え？ いつ帰宅するかって？

.....
なあ？ W W W

リアル？モンスターハンターを読む気がない人のためのダイジェスト（現実派

以上！！！！

超ダイジェスト版でした！

色々飛ばしているエピソードもあります。

ダイジェストに鳴っていない気がしないでもないですが……

70万字以上の小説をまとめるとこれぐらいの文章には行くと……

思いますのでご了承下さいw

試験なんて消えればいい……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6707y/>

月夜に閃く二振りの野太刀

2012年1月4日00時52分発行